

業員は大火九年以来物價の異常な上昇騰を来し  
日常の生活状態は日一日と窮迫を去けつゝ、あるに  
も拘らず依然として大火九年以降収入増加の恩典  
に浴し得ず窮乏に墜因する悲慘なる生活を今  
日身も忍んて来た事に対しは上司諸員の等しく認  
められつゝあること、信し得ず私達従業員として  
甚だ潜越なる申分ではあり得ずか世に衣食足つ  
ぬ礼節を知るとか申せれ得ず願くは私達従業員  
の實生活を保証するたけり労働條件を附與せられ  
たき事を積年以來、要望して居り得た然  
し者から吾が東京市は大火十二年九月一日大震  
火災の惨害を蒙り尔来官民一致復興事業に

寧日なく一面莫大なる復興費用を要しつゝ、ある  
事を充分考慮し惨憺たる生活苦の中をも隱忍  
自重し傾倒しつゝ、今日に至り至つた事にして復興  
事業を著し進捗の跡歴然たるものあり為に收支の  
均衡地、事業に比較し甚だ良好なりと認められ  
した私達水道部従業員は此の状態を憂おしたる  
時實に蘇生の思を有すと共に現在より收支状態を  
以て作製する市強策の断るべき最上妥當なりと  
思惟する別紙付遺改善事項を去る八月七日の東京  
市長伊沢多喜男殿の手許より提出いたし得た然し  
ながら其後容易に解決を與へられず私達の期待を  
裏切り漸く低迷状態に陥つる止むなきに至り得